

関西大学泊園文庫藏自筆稿本目録稿

— その (2) —

城 山 陽 宣

Kansai Daigaku Hakuen Bunko Zō Jihitsu Kōhon Kō
 関西大学泊園文庫藏自筆稿本目録稿 (Manuscripts
 on the List of Book Titles in own hand writings Stored
 in Hakuen 泊園 Library at Kansai University)

— The second —

SHIROYAMA Takanobu

This article is a sequel to “Manuscripts on the List of Book Titles in Own Hand Writings Stored in Hakuen 泊園 Library at Kansai University —The first—”, which was published last year, and the main subject of the work in this article is a mass of autograph manuscripts by Fujisawa Nangaku 藤澤南岳.

Fujisawa Nangaku (1842-1920) was the 2nd lord of the Hakuen Library. He was a firstborn child of Togai 東咳, and his first name was “Tsuné 恒”, nickname “Kiminari 君成”, and pseudonym “Nangaku 南岳” or “Shichikosai-shujin 七香齋主人” etc. After working as a Jukan (儒官; an official under Confucianism) in the domain of Takamatsu 高松, he re-established the Hakuen Library in Osaka in the 6th year of the Meiji 明治 period, and he had been major as a Kangakusha (漢学者; a scholar of the Chinese classic) or Bunjin (文人; a man of letters) in Osaka since then. His academic ability had been known even in Tokyo early on, so that he was requested to serve by the new Meiji government, and invited as a professor by Tokyo Imperial University 東京帝国大学.

Among the autograph manuscripts owned by the Hakuen Library, more than half of them were written by Nangaku. Their contents are extensive, including not only Keigaku (経学; Confucianism) or literature, but also Japanese history. It may be said that they have been serving as an aid not only to explaining the studies in Osaka, but also to filling a vacancy in the Chinese studies' history in Japan during

Meiji and Taisho 大正 periods.

The work in this article essentially follows the same method as the previous one. As for the explanatory note, we can refer to the author's article published in *Bulletin of the Institute of Oriental Occidental Studies* 東西学術研究所紀要 44, 2011.

凡例

本稿は、先年提出した『関西大学泊園文庫蔵自筆稿本目録稿一その(1)一』の続稿である。今回は主に藤澤南岳の手稿本を整理の対象としている。

藤澤南岳(1842-1920)は泊園書院の第二代の院主である。東暎の長子で名は恒、字は君成、南岳や七香斎主人等と号す。高松藩の儒官とした重きをなした後、明治6年(1873)大阪に泊園書院を再興し、以後大阪を代表する漢学者・文人として重きをなした。その実力は早くから遠く東京にも聞こえ、明治新政府より出仕の要請を受けたほか、東京帝国大学より教授として招聘されたほどであった。

泊園文庫に所蔵される自筆稿本のうち、その半数以上が南岳のものである。その内容は経学・文学だけでなく、我が国の歴史に関するものなど多岐にわたっている。これらは、大阪の学術を解き明かす一助となるだけでなく、明治・大正の日本漢学史の欠を埋める貴重な資料ともいえるであろう。

基本的な方針は前回の作業時と大きな変更はないが、一部の用語を改めた部分もある。凡例については『東西学術研究所紀要』44(関西大学東西学術研究所、2011年)掲載の拙稿を参照されたい。

LH2 *甲*52

【公開用】

〔書名〕霜葉考

〔巻数など〕1帙1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕53葉(墨付23葉)

〔寸法〕23.3×18.3〔郭内〕14.1×11.7(21×15.6)

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「霜葉考」書き付け外題「霜葉考」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕9行双行注 四周双辺有界 「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「霜葉考」

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「霜葉考 付〔曆表〕一冊 南岳自筆（霜葉の攷（考）墨は七丁／〔曆表〕墨付十五丁）巻尾「韻雅分配」一丁ヲ付ス」〔関西大学図書館〕の用箋を用う 第53葉の袋とじの中に挟みものあり：鉛筆書きの簡単なメモ・「中村」印

〔その他・特記事項〕〔寸法〕〔郭内〕鼈頭だけでなく1葉の左右にも余白があり、その外寸は21×15.6である 表紙は関大移行の後のものか 本書は題簽「霜葉考」の帙に収む

〔解題〕本書は「霜葉考（7丁）」「曆表（15丁）」「韻雅分配（1丁）」よりなる

LH2*甲*53

【公開用】

〔書名〕楓譜

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕28葉（墨付2葉）

〔寸法〕24.8×16.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「楓譜」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「楓譜 一冊 南岳自筆 写（二丁）」第1葉の袋とじの中に挟みものあり：楓一枚 第24葉の袋とじの中に挟みものあり：楓

二枚

〔その他・特記事項〕本書は題簽「古紙考 古墳考 外」の帙に収む

LH2*甲*54

【公開用】

〔書名〕詠史詩纂

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳評閱 藤澤黄鵠纂註 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕7葉

〔寸法〕25.3×18〔郭内〕15.8×9.7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「詠史詩纂」書き付け外題「詠史詩纂」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕9行20字内外双行注 四周双辺有界 「七香齋蔵」の用箋を用う

〔その他〕句点 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「詠史詩纂」

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 帙なし（帙題簽「詠史詩纂」には、LH2／甲／54／56とある。元来本書はこの帙に収められていたとの図書館担当者の言による）本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2*甲*55

【公開用】

〔書名〕詠史詩纂

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳評閱 藤澤黄鵠纂註 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕20葉

〔寸法〕25.8×19〔郭内〕15.8×9.7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「詠史詩纂」書き付け外題「詠史詩纂」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕9行20字内外双行注 四周双辺有界 「七香齋」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕朱点 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 帙なし 本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む
(元来本書はこの帙に収められていたとの図書館担当者の言による)

LH2 * 甲 * 56-1

【公開用】

〔書名〕詠史詩選

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕15葉 (墨付8葉)

〔寸法〕24.7×16.5

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「詠史詩選」書き付け外題「詠史詩選 一」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行20字内外 無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「詠史詩纂」 本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詠史詩選 一冊 七香齋主人手
録 (藤澤南岳手録) 六丁 美濃紙共表紙」 第9葉裏と第10葉表の間に挟みものあり：「庚子一
月稿」と題する原稿、「大阪鈴木製」の青刷罫紙を用う

〔その他・特記事項〕〔書名〕従来は書誌では、LH2 * 甲 * 56-1 ~ LH2 * 甲 * 56-9の書名を
「詠史詩選草稿」に統一している。しかし、LH2 * 甲 * 56-1 ~ LH2 * 甲 * 56-7の諸冊には、

南岳の手による書き付け外題が付されており、南岳の意志に沿う上からも、書き付けられた外題に従うべきと考えられる。本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む。

LH2 * 甲 * 56- 2

【公開用】

〔書名〕 詠古詩選初稿

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 64葉（墨付28葉）

〔寸法〕 24.2×16.7

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「詠古詩選初稿」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕 第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詠古詩選初稿 二冊 藤澤南岳手稿 第二冊外題「詠古詩選初稿」とあり」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2 * 甲 * 56- 3

【公開用】

〔書名〕 詠史詩纂原稿

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 15葉

〔寸法〕 24.5×16.6

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史詩纂原稿 貳」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕表紙右上隅に「二」の書き付けあり 本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

〔解題〕本書は「詠史詩纂原稿」の残本の一か

LH 2 * 甲 * 56- 4

【公開用】

〔書名〕詠史選古体初稿

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕27葉（墨付26葉）

〔寸法〕24.4×16.7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史選古体初稿 參」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕表紙右隅に「一□古 三」の書き付けあり 本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 56- 5

【公開用】

〔書名〕詠史詩纂目録

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 13葉

〔寸法〕 24×16.5

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「詠史詩纂目録」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書の表紙の右下隅に墨書きによる書き付け 本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕 第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詠史詩纂目録（外題）一冊 藤澤南岳手写 一三丁 美濃紙 朱書あり 「日本詠史詩選目録 二」同じか」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2 * 甲 * 56-6

【公開用】

〔書名〕 日本詠史詩選目録

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 21葉（墨付18葉）

〔寸法〕 23.3×15.8〔郭内〕 18.2×11.9

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「日本詠史詩選目録 二」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 12行 四周双辺有界 藍刷罫紙を用う

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「日本詠史詩選目録（外題）一冊 藤澤南岳手写 一八丁 一二行 青色印刷罫紙 外題は「日本詠史詩選目録 二」とあり、「詠史詩纂目録一冊」と同じか」

〔その他・特記事項〕本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2 * 甲 * 56-7

【公開用】

〔書名〕〔日本詠史詩〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕14葉（墨付13葉）

〔寸法〕24×16.4

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「日本詠史詩」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は書き付け外題による

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「日本詠史詩（外題）一冊 藤澤南岳手録 一三丁 美濃紙共表紙」

〔その他・特記事項〕本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2 * 甲 * 56-8

【公開用】

〔書名〕〔詠史詩選草稿〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕16葉

〔寸法〕24.3×16.8

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史詩選草稿」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行20字内外双行注 無辺無界

〔その他〕句点 返点 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は関大移行後の表紙に外題が書き付けられているため仮の書名とする 本書の外題は「詠史詩選草稿」と書き付けられているが、おそらく最初の「詩」字は「詠」字を書き誤ったものであろう。よって、本書の書名及び書き付け外題は「詠史詩選草稿」と記すこととする

〔挟みもの〕第15葉の袋とじの中に挟ものあり：「泊園書院藏」の藍刷罫紙

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH2 * 甲 * 56-9

【公開用】

〔書名〕〔詠史詩選草稿〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳書き入れ

〔抄写年〕

〔葉数〕40葉

〔寸法〕24.6×18

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詠史詩選草稿」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕11行20字内外双行注 無辺無界

〔その他〕句点 送り仮名 返点 朱筆・墨筆による書き入れ多し

【内部用】

〔書名〕本書の書名は関大移行後の表紙に外題が書き付けられているため仮の書名とする

〔挟みもの〕第22葉裏と第23葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「〔本朝詠史集録〕一冊

写（四十丁）南岳書入沢山あり。」

〔その他・特記事項〕〔著者名〕本書の本文は南岳自筆ではなく、書き入れが南岳の筆になる 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「詠史詩纂」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 57

【公開用】

〔書名〕日本袖史

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕6葉

〔寸法〕20×14.5〔郭内〕13.6×9.7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「日本袖史」書き付け外題「袖史 皇系表」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕8行双行注 四周双边有界 「大東小史」の用箋を用う

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「通史論文・日本袖史皇室表」

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「通史論文・日本袖史皇室表」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 58

【公開用】

〔書名〕通史論文

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕97葉（墨付30葉）

〔寸法〕20.4×14〔郭内〕15×9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「通史論文」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕8行20字内外 四周双辺有界 「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕〔著者名〕本書は藤澤南岳の自筆に非ず 本書は題簽「通史論文・日本袖史皇室表」の帙に収む

〔解題〕本書は「『日本通史』の抜萃」

LH2 *甲*59-1 (～59-2)

【公開用】

〔書名〕通史外編

〔巻数など〕1帙2冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕(1冊目)40葉 (2冊目)58葉

〔寸法〕27.5×19.5〔郭内〕18.6×12.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行22字内外双行注 四周单辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕句点 返点 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「通史外編」 1冊目・2冊目表紙の書き付け外題「七香齋餘筆」 本書の篇は「稱呼譯抄」「通史外編卷之一」「通史外編卷之二」「通史外編卷之三」の順に並ぶ 本書の書名は帙の題簽と本書の篇の序列による

〔挟みもの〕1冊目の第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「稱呼譯抄一冊 (題字ノミ南岳自筆)(七香齋ノ罫)(四十丁)七香齋餘筆 通史外編」〔関西大学図書館〕の用箋を用う 2冊目の第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「通史外編 (存卷二・三)一冊

(題字ノミ南岳自筆) (七香齋ノ罫) (五十八丁) 七香齋餘筆「関西大学図書館」の用箋を用う
2冊目の第1葉の袋とじの中に挟みものあり：罫線が書かれた紙片

〔その他・特記事項〕〔著者名〕本書の本文は藤澤南岳筆に非ず 本書は題簽「通史外編」の帙に収む

LH2 * 甲 * 60-1 (~60-2)

【公開用】

〔書名〕通史年表

〔巻数など〕1帙2冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕(1冊目)40葉(墨付36葉) (2冊目)38葉(墨付37葉)

〔寸法〕28.8×19.8〔郭内〕18.6×12.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「通史年表」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行双行注 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「通史年表」

〔挟みもの〕1冊目の第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「通史年表 二卷二冊 南岳自筆 (「七香齋」黒罫・毎半葉十行)「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕1冊目・2冊目の表表紙耳付き 本書は題簽「通史年表」の帙に収む

LH2 * 甲 * 61

【公開用】

〔書名〕〔大阪名家考〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕24葉(墨付18葉)

〔寸法〕23×15.8〔郭内〕18.2×11.8

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大阪名家考」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕15行 四周双辺有界 「上製」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は関大移行後の表紙に外題が書き付けられているため仮の書名とする 帙の題簽「大阪名家墓所集 外」

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「〔大阪名家考〕 一冊 南岳自筆（墨付十八丁）」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

〔解題〕本書は慶長元和年間から安政年間における大阪の名家を考証したもの（版心の上部の記述による）。大阪府誌総目（1葉）を収む。

LH2 * 甲 * 62

【公開用】

〔書名〕三府通誌料

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕96葉（墨付65葉）

〔寸法〕23.5×16.2〔郭内〕18.6×12.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「三府通誌料」 書き付け外題「三府通誌料」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕15行双行注 四周双辺有界 「二十号高橋製」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第19葉裏と第20葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「三府通誌料 一冊 南岳自筆（大阪府地誌ヲ記ス）（巻尾に「以明治四十四年為断限り」トアリ）九十六丁 地誌（自著）」「関西大学図書館」の用箋を用う 第57葉裏と第58葉表の間に挟みものあり：本書に関連する筆書きのメモ、「泊園書院蔵」の藍刷罫紙を用う 第86葉裏と第87葉表の間に挟みものあり：本書に関連する筆書きのメモ・「□香齋」の用箋を用う
 〔その他・特記事項〕〔抄写年〕巻末に抄写年に関わる記述 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 63

【公開用】

〔書名〕名家墓所集

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕42葉（墨付41葉）

〔寸法〕22.9×16〔郭内〕18.8×12.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「名家墓所集」書き付け外題「大阪名家墓所集」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行21字至25字内外双行注 四周双辺有界 「高橋製」の朱刷罫紙を用う

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕封面「墓所集」

〔挟みもの〕第19葉裏と第20葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「名家墓所集 一冊 南岳自筆写 写 四一丁」

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

〔解題〕暁鐘成『浪華名家墓所集』を写したもの

LH 2 * 甲 * 64

【公開用】

〔書名〕 名士傳料

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕 15葉（墨付11葉）

〔寸法〕 23.1×15.5〔郭内〕 18.3×12.2

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「名士傳料」

〔蔵書印〕 11葉の裏の末尾に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕 10行22字内外双行注 四周単辺有界 藍刷野紙を用う

〔その他〕 句点 朱墨書き入れ

【内部用】

〔書名〕 表紙の右上に「大坂」とあり

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 〔著者名〕 藤澤南岳の標目書入れあり 本書は題簽「大阪名家墓所集 外」の帙に収む

LH2 * 甲 * 65

【公開用】

〔書名〕 海内詩傳

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕 52葉

〔寸法〕 24.5×17.3〔郭内〕 17.4×12.2

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「海内詩傳 二」

〔蔵書印〕 卷末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕 9行20字 四周単辺有界 黒刷用箋を用う

〔その他〕 朱点 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 帙の題簽「大阪名家人物傳 海内詩傳・府誌草」（帙の題簽「大阪名家人物傳」は小文字にて記す）

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕〔著者名〕藤澤南岳の筆になるか不明 本書は題簽「大阪名家人物傳 海内詩傳・府誌草」の帙に収む

〔解題〕大阪名家人物伝

LH 2 * 甲 * 66

【公開用】

〔書名〕府誌草

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕35葉（墨付13葉）

〔寸法〕24.1×16.4

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「府誌草 郡部」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第4葉裏と第5葉表の間に挟みものあり：筆書きによる簡単なメモ「府城表 扨大阪城誌」 第15葉裏と第16葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「府誌草郡部 一冊 寫藤澤南岳自筆未定稿 三七丁仮綴（表紙・裏共）」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「大阪名家人物傳 海内詩傳・府誌草」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 67

【公開用】

〔書名〕〔浪華人物誌草〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 41葉

〔寸法〕 27.2×19.6〔郭内〕 18.8×12.2

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「浪華人物誌草」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 10行24字内外双行注 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う（第40葉のみ無辺無界の用紙を用う）

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「浪華人物誌草」の帙に収む

LH2 * 甲 * 68

【公開用】

〔書名〕 [大阪府誌草]

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 21葉

〔寸法〕 27.8×19.5〔郭内〕 18.7×12.2

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「大阪府誌草」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 10行 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定める

ものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のものか 本書は題簽「浪華人物誌草」の帙に収む

〔解題〕本書は〔大阪府誌草〕（明治末以降に大阪府の地理を論じようとした草稿）、〔浪速諸宮考〕（上古の難波宮などについて論考したもの）、〔豊太閤大坂城中壁書〕よりなる

LH2 * 甲 * 69

【公開用】

〔書名〕翰林九福

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕18葉（墨付11葉）

〔寸法〕24.5×16.1

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「翰林九福」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」 外題：右から順に「名賢」「翰林九福」「藝苑」と書き付け 見返題：右から順に「名賢」「藝林九福」と書き付け 本書の見返に篇名を朱墨にて書き付け（目次ではない）

〔挟みもの〕第6葉裏と第7葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「翰林（藝苑）九福 一冊 南岳自筆 墨付十二丁 自著材料」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

〔解題〕本書は古今の名賢を「安逸」「通顯」「壽考」などに分類して考証しようとしたもの LH2 * 甲 * 70-1「九命草」、LH2 * 甲 * 70-2「九命草」は本書の続編と考えられる。なぜなら、両書とも本書と同様の分類・考証の方法が採られているだけでなく、本書と同様の篇名も散見されるからである。また「九命草」の「壽考」篇には、おおむね「翰林九福」「名士九命草」の二書をまとめようとした形跡が見受けられることも、三書の連続性をうかがえる証拠に挙げられ

るであろう。さらに、LH2 *甲*70-1 「名士九命草」の表紙の右下に「箋ノ二」と書き付けられているのは、「九命草」が何らかの意味で本書の続編であることを示すためになされたと考えられる。よって、「名士九命草」「九命草」は、本書「翰林九福」の続編と見て差し支えあるまい

LH2 *甲*70-1

【公開用】

〔書名〕 名士九命草

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 15葉（墨付11葉）

〔寸法〕 24.2×16.1

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「名士九命草」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 外題：表紙右上に右から順に「文章」「名士九命草」「知遇」と書き付け 表紙右下に右から順に「箋ノ二」「花」（朱書き）と書き付け

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH2 *甲*70-2

【公開用】

〔書名〕 九命草

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 23葉（墨付11葉）

〔寸法〕 24×16.6

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「九命草」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕 第1葉裏と第2葉表の間に挟みものあり：旧時の紙片 第17葉裏と第18葉表の間に挟みものあり：「壽考」に関する筆書きのメモ

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH2 * 甲 * 71

【公開用】

〔書名〕 藝窓録事

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 41葉（墨付20葉）

〔寸法〕 17.4×12.6〔郭内〕 12.7×7

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題「芸窓録事」 書き付け外題「芸窓録事」

〔蔵書印〕 卷末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕 7行 四周双辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書名の「藝窓録事」の「藝」字は外題・内題ともに南岳の手で「芸」字となる

〔挟みもの〕 第1葉表の前に挟みものあり：「詩 老夫十 □履餘痕 一」と墨書された旧時の紙片 第3葉裏と第4葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「芸窓録事付大正己未消夏襪録 一冊 南岳自筆（付香翁手記トアリ）（「七香齋」黒罫・毎半葉七行） 墨付（録事十八丁・襪録一丁） 一丁 20丁」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕〔抄写年〕第23葉表に「大正八年己未消夏襍録 香翁手記 七月一日雨」とある〔解題〕本書は「別号録」よりなる「別号録」に「門生」の項目が立てられている（第17葉表） 本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH2 * 甲 * 72- 1 (~ 1 - 2)

【公開用】

〔書名〕 芳號九流

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 33葉

〔寸法〕 24.2×16.6〔郭内〕 17.7×10.8

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題「芳號九流」 書き付け外題「芳號九流」

〔蔵書印〕 卷末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕 9行20字内外 四周双辺有界 「七香齋藏」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕 朱筆・墨筆による書き入れあり 卷末に朱書きで「今所録浪華而已要更収録海内」と奥書あり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕 第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「芳號九流 一冊 南岳自筆（七香齋主人録トアリ）（「七香齋藏」藍棚罫紙） 三十三丁、每半葉九行」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 号を五十音順に配列 本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH2 * 甲 * 72- 2

【公開用】

〔書名〕 芳號九流

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕24葉

〔寸法〕24.3×16.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕9行 無辺無界

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり 奥書に「以明治二十四年為断」とあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「芳號九流 三冊 南岳自筆（人名索引）」「関西大学図書館」の用箋を用う 第18葉の袋とじの中に挟みものあり：「□本帖簿店製」の藍刷野紙に筆書きされた「西山成章」に関する資料

〔その他・特記事項〕本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH2*甲*72-3

【公開用】

〔書名〕芳號九流

〔卷数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕38葉（墨付19葉）

〔寸法〕23.8×16.4

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流」

〔藏書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕書き付け外題「芳號九流 明 大」

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 72- 4

【公開用】

〔書名〕[芳號九流草稿]

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕28葉（墨付27葉）

〔寸法〕23.6×17.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流草稿」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 72- 5

【公開用】

〔書名〕[芳號九流草稿]

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕46葉（墨付37葉）

〔寸法〕25.3×17.3

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「芳號九流草稿」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕無辺無界（一部「七香齋」の用箋を用う）

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕〔寸法〕本書は複数の冊子を合本したものであるため、書中の用紙及び寸法が大きく異なっている。なお、公開用の〔寸法〕は、折りたたまれた表紙のものである。正確な寸法は以下の通り。（第1葉から第15葉まで）24.5×16.8（第16葉から第22葉まで）24.8×16.7（第23葉）24.3×22.8（折込）（第24葉から第30葉まで）24.7×33.5（折込）（第31葉から第42葉まで）24.3×33.3（折込）（第43葉から第46葉まで）27.2×19.3〔版式・書式〕（第43葉から第46葉まで）10行、四周単辺有界、「七香齋」の用箋を用う 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「翰林九福・藝窓録事・芳號九流」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 73-1

【公開用】

〔書名〕歸厚年表草

〔巻数など〕1枚

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕

〔寸法〕12.2×14.4

〔装訂〕仮綴じ

〔内題・外題〕内題「歸厚年表草」 書き付け外題「歸厚年表草」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕 挟みもの：筆書きのメモ

〔その他・特記事項〕 〔葉数〕 本書は横長の紙を仮綴じたものであるため、葉数を示さない

〔寸法〕 表記は表紙による 〔装丁〕 本書を大別すれば折本で良いだろうが、細別するならば旋風葉のほうがふさわしいと考えられる 〔備考〕 折本の場合、葉数と寸法をどう表記するか 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

LH2 * 甲 * 73- 2

【公開用】

〔書名〕 歸厚年契

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 24葉（墨付23葉）

〔寸法〕 24.4×16.6

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「歸厚年契」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

LH2 * 甲 * 74

【公開用】

〔書名〕 [老部]

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 29葉（墨付29葉）

〔寸法〕 24.6×17.1

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 外題なし

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書は、「七香齋叢書」(LH2*甲*108)か「七香齋類函」(LH2*甲*109)、あるいは「七香齋餘筆」(LH2*甲*75・LH2*甲*76等)のうちの一部分か

〔挟みもの〕 第1葉の袋とじの中に挟みものあり：本書の補遺が筆書された紙片 第3葉裏と第4葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「老部 一冊 南岳自筆 三十丁 卒年考」〔関西大学図書館〕の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「歸厚年表・老部」の帙に収む

LH2*甲*75

【公開用】

〔書名〕 〔儒臣大事表〕

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 17葉 (墨付17葉)

〔寸法〕 27.5〔郭内〕 18.7×12.2

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「儒臣大事表」「七香齋餘筆」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 10行双行注 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書は「七香齋餘筆」の一部分か

〔挟みもの〕 第1葉裏と第2葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「儒臣大事表 一冊 藤澤南岳自筆稿本、表紙に「七香齋餘筆」とあり。10行罫紙を使用、版心に「七香齋」」用箋

の右下欄外に「17丁」とあり 第4葉裏と第5葉表の間に挟みものあり：筆書された紙片
〔その他・特記事項〕本書は題簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

LH2 * 甲 * 76

【公開用】

〔書名〕〔先哲生卒年考〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕32葉（墨付28葉）

〔寸法〕27.7×19.8〔郭内〕18.7×12.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「先哲生卒年考」書き付け外題「七香齋餘筆」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行双行注 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕朱筆・墨筆による訂正あり

【内部用】

〔書名〕本書は、〔儒臣大事表〕（LH2 * 甲 * 75）と同じく、「七香齋餘筆」（LH2 * 甲 * 75・LH2 * 甲 * 76等）の一部か

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「先哲生卒年考 一冊（題字ノミ南岳自筆）（七香齋ノ野）（三十二丁）七香齋餘筆」〔関西大学図書館〕の用箋を用う

〔その他・特記事項〕〔著者名〕題字のみ藤澤南岳筆か〔版式・書式〕30～35字内外 本書は題簽「儒臣大事表・先哲生卒年考」の帙に収む

LH2 * 甲 * 77

【公開用】

〔書名〕明史人名抄

〔巻数など〕1帙1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕82葉（墨付82葉）

〔寸法〕 17.3×11.8〔郭内〕 15.3×10.2

〔装訂〕 和綴じ

〔内題・外題〕 内題「明史人名抄」 外題なし

〔蔵書印〕 卷末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕 左右双辺無界

〔その他〕 朱点 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 〔版式・書式〕 版心の「重訂文選集評」の書名を墨で塗りつぶした用箋を用う 本書は題簽「明史人名抄」の帙に収む

LH2 * 甲 * 78-1 (～78-2)

【公開用】

〔書名〕 清統譜

〔巻数など〕 2冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 (1冊目) 48葉 (墨付48葉) (2冊目) 32葉 (墨付32葉)

〔寸法〕 (1冊目) 25×17.5 (2冊目) 25.1×17.5

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「清統譜」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕 (1冊目) 第7葉裏と第8葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「清統譜 二冊 藤澤南岳〔撰〕自筆稿本 共表紙」用箋の右下欄外に「48丁 31丁」とあり (1冊目) 第35葉の袋とじの中に挟みものあり：朱色と藍色で線引きされた罫紙 (2冊目) 裏表紙の袋とじの中に挟みものあり：朱刷罫紙の紙片に本書の補遺を筆書きしたもの

〔その他・特記事項〕〔葉数〕（2冊目）表紙の裏に書き入れがあるため、表紙も葉数に含む〔版式・書式〕一部、双行注〔その他〕（1冊目）裏表紙の袋とじの中に書き入れあり（2冊目）表紙と裏表紙の袋とじの中に書き入れあり 本書は題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

LH2*甲*79

【公開用】

〔書名〕清人總目

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕22葉（墨付7葉）

〔寸法〕24.1×16.6〔郭内〕19.8×12.7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「清人總目」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕10行 四周双辺有界 藍刷野紙を用う

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕表紙左上に墨書された「計簿」の字を墨で消し、その右に「清人總目」の書名を書き付け

〔挟みもの〕第8葉裏と第9葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「清人總目 一冊〔藤澤南岳編〕白表紙 清人人名録か、南岳先生自筆 未定稿」〔関西大学図書館〕の用箋を用う 用箋の右下欄外に「7丁」とあり

〔その他・特記事項〕本書は題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

LH2*甲*80-1（～80-2）

【公開用】

〔書名〕清士小傳

〔巻数など〕2冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕（1冊目）46葉（墨付46葉）（2冊目）72葉（墨付72葉）

〔寸法〕（1冊目）24.7×17（2冊目）24.7×17.2

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「清士小傳」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕12行 双行注 無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕（2冊目）第6葉裏と第7葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「清士小傳二冊 写 題簽のみ南岳自筆 45丁 72丁」（2冊目）第21葉の袋とじの中に挟みものあり：「堂全集南澁集」と墨書された紙片（張り込みか）

〔その他・特記事項〕〔著者名〕書き付け外題と一部書き入れのみ藤澤南岳筆か（1冊目・LH2 *甲*80-1の32葉の表の「孫奇逢」の項目など）〔その他〕張り込み 本書は題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

LH2 *甲*81

【公開用】

〔書名〕〔唐土老部〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕11葉（墨付11葉）

〔寸法〕24.5×16.9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「唐土老部」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書は、〔老部〕（LH2 *甲*74）と同じく、「七香齋叢書」（LH2 *甲*108）か「七

香齋類函」(LH2 * 甲 * 109)、あるいは「七香齋餘筆」(LH2 * 甲 * 75・LH2 * 甲 * 76等)のうちの一部分か 本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行後のもの 本書は題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

LH2 * 甲 * 82

【公開用】

〔書名〕[唐人名彙]

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕60葉(墨付58葉)

〔寸法〕25.2×17.5

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕12行内外 双行注 無辺無界

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書は、[儒臣大事表](LH2 * 甲 * 75)、[先哲生卒年考](LH2 * 甲 * 76)と同じく、「七香齋餘筆」(LH2 * 甲 * 75・LH2 * 甲 * 76等)の一部分か

〔挟みもの〕第8葉裏と第9葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり:「[唐人名彙] 一冊 南岳自筆(五十八丁) 七香齋餘筆」[関西大学図書館]の用箋を用う

〔その他・特記事項〕[蔵書印]巻末に「泊園文庫」印(第58葉裏) 本書は題簽「清統譜・清士小傳 外」の帙に収む

LH2 * 甲 * 83

【公開用】

〔書名〕[明清名彙]

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 56葉（墨付56葉）

〔寸法〕 28×20.2〔郭内〕 18.7×12.1

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「明清名彙」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 10行 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕 本書は、〔老部〕（LH2 * 甲 * 74）、〔唐土老部〕（LH2 * 甲 * 81）、〔唐人名彙〕（LH2 * 甲 * 82）と同じく、「七香齋叢書」（LH2 * 甲 * 108）か「七香齋類函」（LH2 * 甲 * 109）、あるいは「七香齋餘筆」（LH2 * 甲 * 75・LH2 * 甲 * 76・LH2 * 甲 * 82等）のうちの一部か本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「全唐文詩人名總目・明清名彙」の帙に収む

LH2 * 甲 * 84

【公開用】

〔書名〕 [全唐文詩人名總目]

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 72葉（墨付72葉）

〔寸法〕 27.4×19.6〔郭内〕 18.7×12.2

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題「全唐文詩人名總目」 書き付け外題「七香齋餘筆」

〔蔵書印〕 卷末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕10行 双行注 四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書は、〔儒臣大事表〕(LH2 * 甲 * 75)、〔先哲生卒年考〕(LH2 * 甲 * 76)、〔唐人名彙〕(LH2 * 甲 * 82)と同じく、「七香齋餘筆」(LH2 * 甲 * 75・LH2 * 甲 * 76・LH2 * 甲 * 82等)の一部か

〔挟みもの〕第4葉裏と第5葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「全唐文詩人名總目 一冊 南岳自筆 (七十一丁) 七香齋餘筆」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「全唐文詩人名總目・明清名彙」の帙に収む

LH2 * 甲 * 85

【公開用】

〔書名〕**建置沿革**

〔卷数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕14葉 (墨付11葉)

〔寸法〕24.3×18.5

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「建置沿革」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第2葉裏と第3葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「建置沿革 一冊 (材料掌記) 南岳自筆 墨付十一丁」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

LH2 * 甲 * 86

【公開用】

〔書名〕 [地名考]

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 3葉（墨付3葉）

〔寸法〕 24.8×17.7

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「地名考」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 無辺無界

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕 本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕 第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「〔地名考〕 三十郡部 寫、三丁 藤澤南岳手寫」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

LH2 * 甲 * 87

【公開用】

〔書名〕 [吉備地志料]

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 16葉（墨付16葉）

〔寸法〕 17.7×12.6

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「吉備地志料」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 9行18字至21字内外双行注 無辺無界

〔その他〕書き入れあり

【内部用】

〔書名〕本書の書名は、関大移行後の表紙にある書き付け外題に依拠しているため、仮に定めるものとする 書誌作成者（城山）：本書には備前国の郡と村里が記録されているため、書名も〔備前地志料〕のほうが相応しいと考える

〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「16丁 吉備地誌料」

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

LH2*甲*88

【公開用】

〔書名〕〔讃岐地志料凡例〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕6葉（墨付6葉）

〔寸法〕22.3×15.5〔郭内〕18.1×12.8

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「地志料」書き付け外題「讃岐地誌料凡例」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行 双行注 四周単辺有界

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕本書の内題は南岳の自筆である。ところが、本書も収入されている題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙中の数種の地誌書の書き付け外題には「地誌料」と書き付けられ、書名の記載に混乱が見られる。「地志」と「地誌」の表す意味は同じであるが、ここではどちらかに統一すべきと考えられる。そこで、これらの書名については南岳の自筆を尊重し「地志料」に統一すべきである 本書の書名は、関大移行後に書き付けられた外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙の書き付け外題は関大移行の後のもの（関大移行後の表紙に書きつけ

である〔吉備地誌料〕（LH2 * 甲 * 87）などと同じ手か）本書は題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

LH2 * 甲 * 89

【公開用】

〔書名〕〔讃岐地志料〕

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕26葉（墨付25葉）

〔寸法〕24.6×16.7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「讃岐地志料」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行20字双行注 無辺無界

〔その他〕欄外書き入れ多し 書き入れ多し

【内部用】

〔書名〕本書の書名は、関大移行後に書き付けられた外題に依拠しているため、仮に定めるものとする

〔挟みもの〕第2葉の袋とじの中に挟みものあり：墨で横線を引いた藍刷罫紙

〔その他・特記事項〕表紙の書き付け外題は関大移行後のもの（関大移行後の表紙に書きつけてある〔吉備地志料〕（LH2 * 甲 * 87）などと同じ筆跡）本書は題簽「建置沿革・讃岐地志料」の帙に収む

LH2 * 甲 * 90

【公開用】

〔書名〕文章九彩

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕54葉（墨付52葉）

〔寸法〕25.2×16.9〔郭内〕15.1×9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「文章九彩」書き付け外題「文章九彩」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕8行24字内外 双行注 四周双辺有界 「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第17葉裏と第18葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「文章九彩 一冊 南岳自筆（香翁手録トアリ）（「七香齋蔵」藍罫・每半葉八行）（五十四丁）」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2*甲*91-1

【公開用】

〔書名〕短古韻範九格

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕20葉

〔寸法〕24.4×16.5〔郭内〕17.5×10.8

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「短古韻範九格」書き付け外題「短古九格」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕9行21字内外 四周双辺有界 「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕朱点 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕内題の上部欄外に「古押九格」とあり

〔挟みもの〕第8葉裏と第9葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「短古韻範九格（古押九格）一冊 南岳自筆（香翁恒著トアリ）（「七香齋蔵」藍罫・每半葉九行）（二十丁）」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2*甲*91-2

【公開用】

〔書名〕短古韻範

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕7葉

〔寸法〕25.6×17.6〔郭内〕17.8×10.9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「短古韻範」書き付け外題「短古韻範九格」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕9行 双行注 四周双辺有界 「七香齋蔵」の用箋を用う（第7葉に10行20字、四周单辺有界の「泊園書院」の藍刷罫紙を用う）

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり 欄外書き入れあり

【内部用】

〔書名〕内題の下に「九格」の朱書あり

〔挟みもの〕第2葉裏と第3葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「短古韻範 一冊 南岳自筆（七丁）（七香齋蔵ノ罫）韻」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のもの 本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2*甲*92

【公開用】

〔書名〕九格詳註

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕32葉

〔寸法〕17×11.8〔郭内〕11.2×7.5

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「九格詳註」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕9行 双行注 四周双辺有界 藍刷罫紙を用う

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れ多し

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第5葉の袋とじの中に挟みものあり：メモ（赤紙に筆書） 第32葉裏と裏表紙の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「九格詳註 一冊 南岳自筆（藍罫・每半葉九行）全三十四丁 韻」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕〔著者名〕第20葉表の一行目に「香翁藤澤南岳」とあり 〔抄写年〕第15葉裏に「九月二十一日記」の朱書あり 本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2*甲*93-1

【公開用】

〔書名〕簡字九韻

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕31葉

〔寸法〕25.3×17〔郭内〕15.1×9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「簡字九韻」 書き付け外題「簡字九韻」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕8行20字 双行注 四周双辺有界 「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕朱筆による書き入れ多し

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第12葉裏と第13葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「簡字九韻 南岳自筆（九九山人手録）（「七香齋蔵」藍罫・每半葉八行）（二十九丁）」「関西大学図書館」の用箋を

用う

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2 * 甲 * 93-2

【公開用】

〔書名〕 簡字九韻

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕 26葉

〔寸法〕 25.3×18.1〔郭内〕 18.8×11.8

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題「簡字九韻」 書き付け外題「簡字九韻」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 10行20字 双行注 四周単辺有界 「泊園書院」の藍刷野紙を用う

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕 第12葉裏と第13葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「簡字九韻 一冊 写（表紙ノ題字ノミ南岳自筆）（「泊園書院」藍棚罫・毎半葉十行二十字）二十六丁」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 〔著者名〕 本文は南岳の手筆に非ず 本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2 * 甲 * 94-1

【公開用】

〔書名〕 詩韻玉粹

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 20葉

〔寸法〕24.9×16.8

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「詩韻玉粹」書き付け外題「詩韻玉粹」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕10行20字内外 双行注 無辺無界

〔その他〕欄外・本文とも朱筆・墨筆による書き入れ多し

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第7葉裏と第8葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詩韻玉粹（巻下）一冊 南岳自筆（巻首二七香齋主人録トアリ）（二十丁）韻」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は離れ本である（内題の下に「巻下」とあり）本書は題簽「文章九彩・短古九格（簡字九韻）（外）」の帙に収む

LH2*甲*94-2

【公開用】

〔書名〕詩韻玉粹

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕36葉（墨付35葉）

〔寸法〕18.8×12.6

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「詩韻玉粹」書き付け外題「詩韻玉粹」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕9行22字内外 双行注 無辺無界

〔その他〕朱筆によるの書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第15葉裏と第16葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詩韻玉粹 二冊（平声各一冊）七香齋主人録 題字のみ南岳自筆（平／十四丁・声、二十一丁）（二十丁）韻」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕〔著者名〕本文は南岳の手筆に非ず〔葉数〕裏表紙に墨付〔装丁〕2冊を合冊〔内題・外題〕内題は南岳の手筆、書き付け外題は肥田氏の手になるか 本書は題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

LH2*甲*95

【公開用】

〔書名〕韻略九圖

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕39葉（墨付34葉）

〔寸法〕17.7×12.9〔郭内〕12.5×7

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「韻略九圖」書き付け外題「臥遊餘事」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕7行 双行注 四周双边有界 「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第3葉の袋とじの中に挟みものあり：マス目を筆書きしたメモ（「七香齋」の用箋）

第4葉裏と第5葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「韻略九圖 一冊（題簽ニ「臥遊餘事」ト書ス）南岳自筆（「七香齋」黒罫・毎半葉七行）三十四丁（墨付）韻」〔関西大学図書館〕の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

LH2*甲*96

【公開用】

〔書名〕韻雅詳註

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕68葉

〔寸法〕20.1×14.1

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「韻雅詳註」書き付け外題「韻雅詳註」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕9行22字内外 双行注 無辺無界

〔その他〕欄外書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第33葉裏と第34葉表の間に挟みものあり：「この間欠丁」と鉛筆書きされたメモ 第34葉裏と第35葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「韻雅詳註（一冊）南岳自筆 下平声（一～三十二）三十二枚 下平声（十八～四十九）三十二枚 下平声（四・六～七）三枚

韻 韻」「関西大学図書館」の用箋を用う 第36葉裏と第37葉表の間に挟みものあり：「この間欠丁」と鉛筆書きされたメモ

〔その他・特記事項〕〔内題・外題〕表紙の書き付け外題は関大移行の後のもの（関大移行後の表紙に書きつけてある〔吉備地誌料〕（LH2*甲*87）などと同じ手か）（肥田先生か）本書は題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

LH2*甲*97-1

【公開用】

〔書名〕〔韻雅〕

〔卷数など〕1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕65葉（墨付63葉）

〔寸法〕20.4×14.1〔郭内〕15.1×8.9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「韻雅」書き付け外題「輯韻 全」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕8行20字双行注 四周双辺有界 「鶏窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）の用箋を用う

〔その他〕 句点 朱点 欄外書き入れ多し 朱筆・墨筆による書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕 第19葉裏と第20葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「韻雅（輯韻） 二冊
南岳自筆（鷄窗餘筆／不苟書室藏）トアル罫ヲ用フ 上（六十三丁）下（三十九丁）（巻首
二七香齋主人輯トアリ） 韻」〔関西大学図書館〕の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「詩韻玉粹・韻雅」の帙に収む

LH 2 * 甲 * 97- 2

【公開用】

〔書名〕 韻雅

〔巻数など〕 1冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 39葉

〔寸法〕 21.2×14.4〔郭内〕 15.1×8.9

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題「韻雅」 書き付け外題「韻雅 下」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 8行20字双行注 四周双边有界 「鷄窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）
の用箋を用う

〔その他〕 句点 朱点 欄外朱筆・墨筆による書き入れ多し 朱筆・墨筆による書き入れ多し
奥書に「清施何牧着韻雅五卷故改名韻綜（朱筆）又按作韻典亦可」とあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 本書は韻雅卷之三から卷之五までを存す 本書は題簽「詩韻玉粹・韻雅」
の帙に収む

LH 2 * 甲 * 97- 3

【公開用】

〔書名〕 韻雅

〔巻数など〕 1 帙 1 冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕 46葉（墨付45葉）

〔寸法〕 23.2×12.9〔郭内〕 17.2×10.3

〔装訂〕 線装

〔内題・外題〕 内題「韻雅」 外題なし

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 8行24字双行注 四周双辺有界 「翰墨縁」（版心上）「陳一鶚」（版心下）の朱刷
罫紙を用う

〔その他〕 欄外に朱筆・墨筆による書き入れあり 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕 本書は題簽「韻雅」の帙に収む

LH2 * 甲 * 98- 1 （～98- 3）

【公開用】

〔書名〕 [詩韻貫綜]

〔巻数など〕 1 帙 3 冊

〔著者名〕 藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕（1冊目）21葉（2冊目）23葉（墨付22葉）（3冊目）73葉（墨付72葉）

〔寸法〕（1冊目）24.4×16.6〔郭内〕 15.1×8.9（2冊目）24.4×16.6〔郭内〕 15.1×8.9（3冊目）24.7×16.7〔郭内〕 15.1×8.9

〔装訂〕 大和綴じ

〔内題・外題〕 内題なし 外題なし

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕 8行20字双行注 四周双辺有界 「鶏窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）
の用箋を用う

〔その他〕句点 欄外書き入れあり 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕卷十一・卷十四の巻頭書名「詩韻貫綜」（3冊目）表紙右上に「三卷」の書き入れあり

〔挟みもの〕（3冊目）第12葉裏と第13葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詩韻貫綜〔草稿〕 一束 南岳自筆（「鷄窗餘筆」「不苟書室藏」里野・毎半葉八行）〔詩韻貫綜〕 一冊 南岳自筆（一送一七遇まで）二十一丁」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書は未完の書である 本書は題簽「詩韻貫綜」の帙に収む

LH2 * 甲 * 99-1（～99-4）

【公開用】

〔書名〕詰略

〔巻数など〕1帙4冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕（1冊目）35葉（墨付24葉）（2冊目）30葉（墨付16葉）（3冊目）36葉（墨付13葉）（4冊目）33葉（墨付22葉）

〔寸法〕（1冊目）24.9×18.9〔郭内〕15.1×8.9（2冊目）25.1×18.6〔郭内〕15.1×8.9（3冊目）24.9×19〔郭内〕15.1×8.9（4冊目）25×18.8〔郭内〕15.1×8.9

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「詰略 上（上平）（下平）（去）」

〔蔵書印〕

〔版式・書式〕8行20字双行注 四周双辺有界 「鷄窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）の用箋を用う

〔その他〕欄外書き入れあり

【内部用】

〔書名〕（2冊目・3冊目・4冊目）書き付け外題「詰畧」

〔挟みもの〕（1冊目）第6葉裏と第7葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「詰畧 四冊（上、上平、下平、去）南岳手稿」「関西大学図書館」の用箋を用う（1冊目）第26葉の袋とじの中に挟みものあり：8行 四周双辺有界「鷄窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）の用箋の一行を20字分に区切った紙片（2冊目）第6葉の袋とじの中に挟みものあり：

8行 四周双辺有界「鶏窗餘筆」(版心上)「不苟書室藏」(版心下)の用箋の一行を20字分に区切った紙片 (2冊目) 第29葉裏と第30葉表の間に挟みものあり:「茶具」と題された一節が筆書きされた10行20字四周単辺有界「泊園書院藏」の藍刷罫紙 (4冊目) 第1葉の袋とじの中に挟みものあり: 8行 四周双辺有界「鶏窗餘筆」(版心上)「不苟書室藏」(版心下)の用箋の一行を20字分に区切った紙片

〔その他・特記事項〕本書は題簽「詰略」の帙に収む

LH2 * 甲 * 100

【公開用】

〔書名〕簡字九韻

〔巻数など〕1帙1冊

〔著者名〕藤澤南岳 藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕26葉 (墨付25葉)

〔寸法〕27.9×18.7〔郭内〕18.6×12.1

〔装訂〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「簡字九韻」書き付け外題「簡字九韻稿」

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕10行24字双行注 四周単辺有界「七香齋」の用箋を用う

〔その他〕句点 欄外書き入れあり 書き入れあり

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第7葉裏と第8葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり:「簡字九韻稿 一冊 南岳自筆 (「七香齋」里野・每半葉十行) (二十六丁)」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕本書はLH2 * 甲 * 93-1「簡字九韻」、LH2 * 甲 * 93-2「簡字九韻」の草稿にあたる書籍である。本書は題簽「簡字九韻」の帙に収む